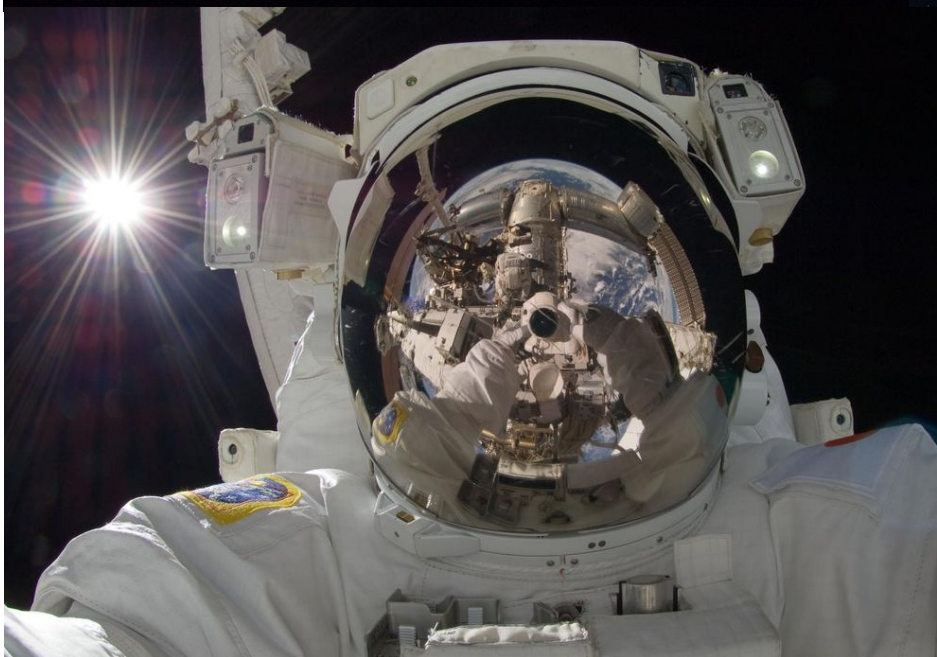
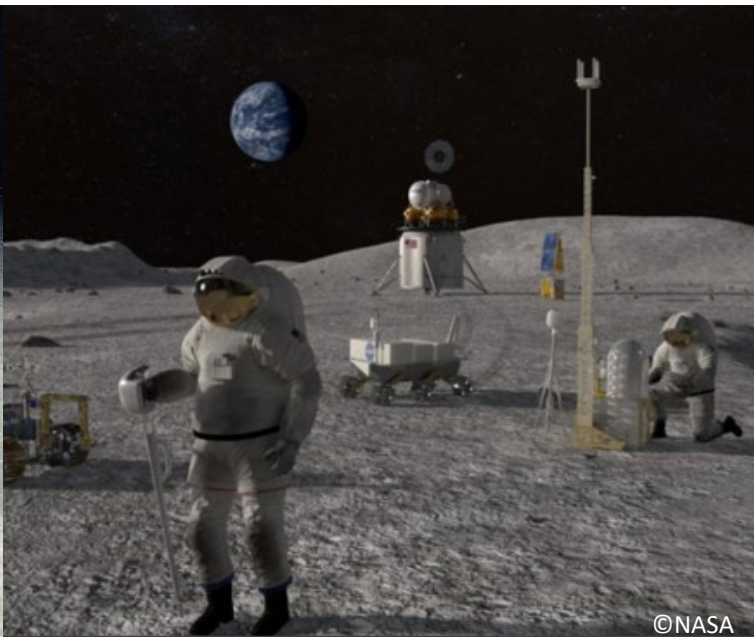
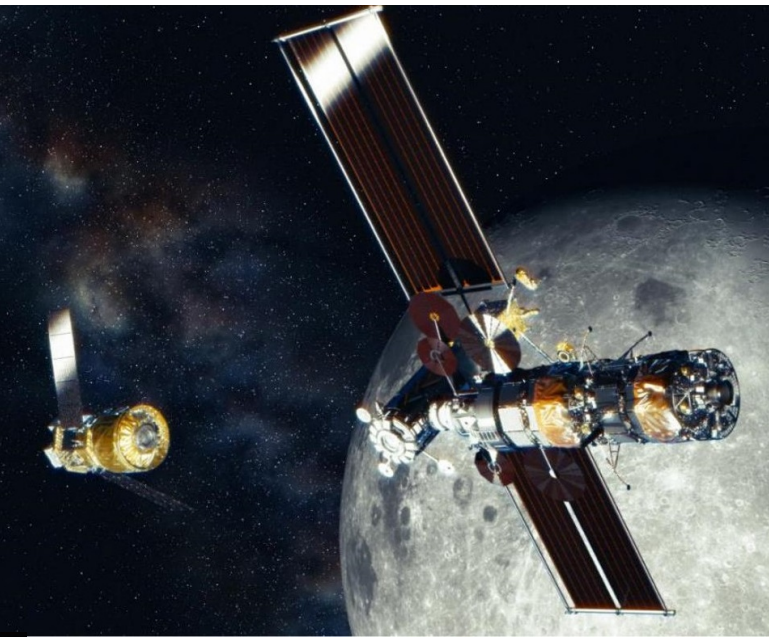
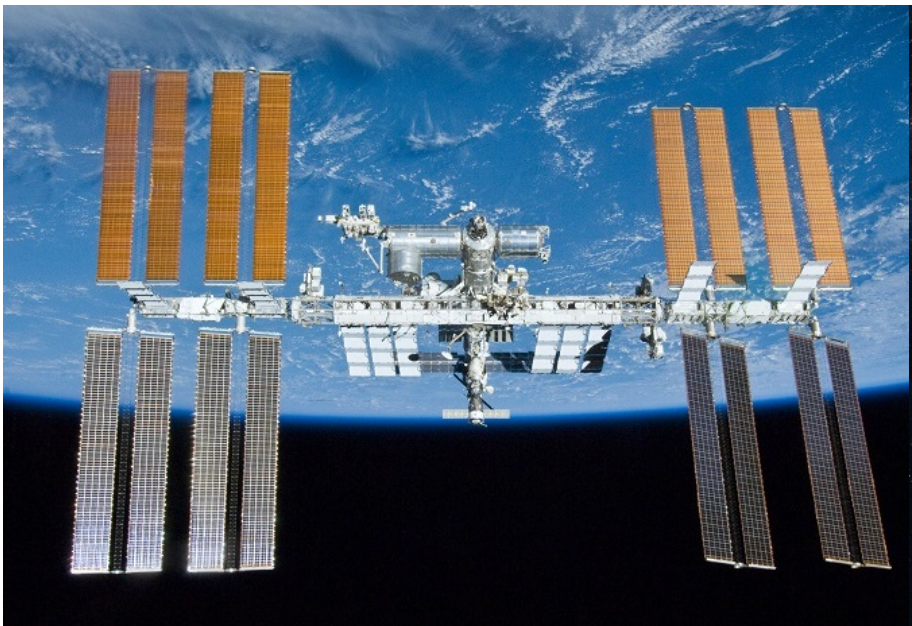




【補足資料】
2021年度
宇宙飛行士候補者の募集について

2021年11月19日

目次

- これまでの経緯と活動（2020年10月～）
- 募集・選抜の検討にあたっての基本的な考え方
- パブリックコメントでいただいたご意見の紹介と反映
- これまでの有人宇宙活動と国際宇宙ステーション・日本実験棟「きぼう」での活動
- 新たな宇宙飛行士が活躍するフィールド
- 職務内容（訓練業務、搭乗業務、技術業務及びアウトリーチ業務）
- 募集の趣旨
- 募集・選抜の実施計画（概要）
- 募集要項案（応募資格、選抜方法、新たな宇宙飛行士に求める人物像、評価する特性）
- 留意事項
- 募集選抜に関するスケジュール
- 今後の予定
- その他
- 広報・アウトリーチ活動について
- 参考資料

これまでの経緯と活動（2020年10月～）

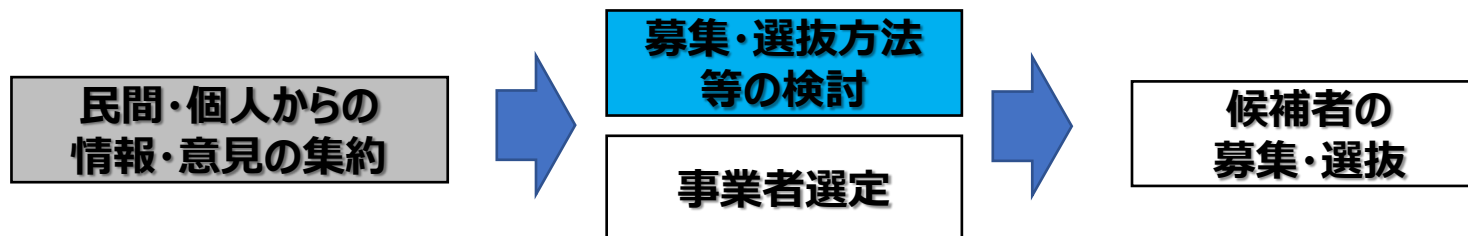
1. 国際宇宙探査に向けて機運が高まっている状況を踏まえ、新たな日本人宇宙飛行士候補者について、本年秋頃を目途に募集を開始すること、今後5年に1回程度の頻度で募集を行うことを2020年10月に萩生田 前文部科学大臣が発表。

募集の背景（本委員会第39回資料39-1より一部抜粋）

- 現役日本人宇宙飛行士の高齢化
 - 現役宇宙飛行士7名（平均年齢: 51歳）、最年少は金井飛行士（43歳）
 - ゲートウェイ搭乗が始まる2025年には4名、月面活動が活発化する2030年には2名（定年: 60歳）
- 文部科学大臣とNASA長官による月探査協力に関する共同宣言（JEDI）への署名による、日本人宇宙飛行士の活動機会の具体化
- アルテミス合意への署名等を受けた、国際宇宙探査や月探査に向けた機運の高まり



2. 候補者の募集に向け、応募条件等への個人からの意見や、募集・選抜、基礎訓練に活用できる民間のアイデア等の募集を1月20日から3月19日まで実施。



募集・選抜の検討にあたっての基本的な考え方

抜粋：宇宙開発利用部会 ISS・国際宇宙探査小委員会（第41回） 2021年2月2日

1. 新しい募集・選抜、基礎訓練への変革

- ・ 募集・選抜、基礎訓練においては、JAXAが主体的に行いつつ、民間事業者が得意とする人材の評価・育成手法やアイデアを活用し、時代に即した新しい方法を構築する。
- ・ 加えて、多様な人材の雇用や働き方が推進されていることを踏まえ、本募集・選抜、基礎訓練においても、多様性を追求する。

2. 国際宇宙探査に対する支持の獲得

- ・ 国民の期待を背負い、日本史に残るミッションを行うにあたり、選ばれる宇宙飛行士・候補者に対して、ひいては国際宇宙探査計画に対して、その意義価値の納得感を共有し、国際宇宙探査に対する理解や支持を得ることを目指す。
- ・ 納得感の共有に向け、今回の募集・選抜、基礎訓練においては、その過程を見える化し、多くの国民が応援する宇宙飛行士像を作り上げる。

3. 宇宙産業への貢献

- ・ 今回作り上げる宇宙飛行士・候補者の選抜ノウハウや訓練技術が、民間宇宙飛行士の選抜や養成等の宇宙関連ビジネスに活用されることを目指し、選抜・訓練ノウハウを活用した新しい事業創出の可能性を探る。

パブリックコメントでいただいたご意見の紹介

前回（平成20年度）の宇宙飛行士候補者の募集要項及び現在JAXAで検討中の応募条件等の案に対するご意見、その他、宇宙飛行士候補者の募集や選抜、基礎訓練に関するご意見を広く募集（募集期間：2020年1月20日～3月19日）

計211件のご意見

パブコメでいただいたご意見（一部）：

- ・ 学歴(前回大卒以上)：前回以上の学歴を求める意見もあったが、条件の緩和を求める意見(短大・高専・専門学校も可、学歴撤廃)がより多くあった。
- ・ 専門分野(自然科学系)：前回同様に自然科学系の条件を求める意見もあったが、専門分野を求めないことに賛成する意見がより多くあった。
- ・ 実務経験(3年以上)：訓練中の実務経験で補う等でカバーできるという意見あり。
- ・ 女性の応募や採用を増やす施策を希望する意見あり。
- ・ 働き方の多様化(任期制・クローブ)：賛成意見あり。
- ・ 推薦状：転職活動では求められないことが一般的であり、求めなくてよいのではないか等の意見あり。
- ・ 選考過程オープン：プライバシー保護の観点からの反対意見がある一方で、国民に興味を持ってもらう観点からの賛成意見等があった。
- ・ 落選者への対応：落選理由のフィードバック等の落選者への対応を求める意見があった。

ご意見を踏まえた反映事項

(1) 応募条件の緩和

今回の意見募集において学歴及び専門分野の条件緩和に関する意見が多く寄せられたことを踏まえ、今回は学歴及び専門分野は応募条件とはせず、宇宙飛行士候補者に必要なこれらの能力は選抜試験において評価することとした。

これに加え、訓練期間中に充足できる条件（泳力、自動車免許保有）は応募資格から除外するなど、応募条件の全体的に見直した。

(2) 女性応募奨励のための広報施策の展開

日本人女性宇宙飛行士が不在である状況ならびに女性飛行士の採用を求める意見を踏まえ、ポジティブ・アクション（格差解消を目的とするため、男女雇用機会均等法の違反とならない女性枠設置等の優遇措置）の適用も検討したが、若干名と採用人数が少ない状況を踏まえ、女性枠は設けず、募集における女性の応募奨励のための各種広報関連施策を行うこととした。

ご意見を踏まえた反映事項

(3) 働き方の多様性

訓練期間や訓練スケジュール等の養成計画との関係、所属元組織との関係等、様々な点を検討した結果、導入することが難しいとの結論に至り、活用を見合わせた。

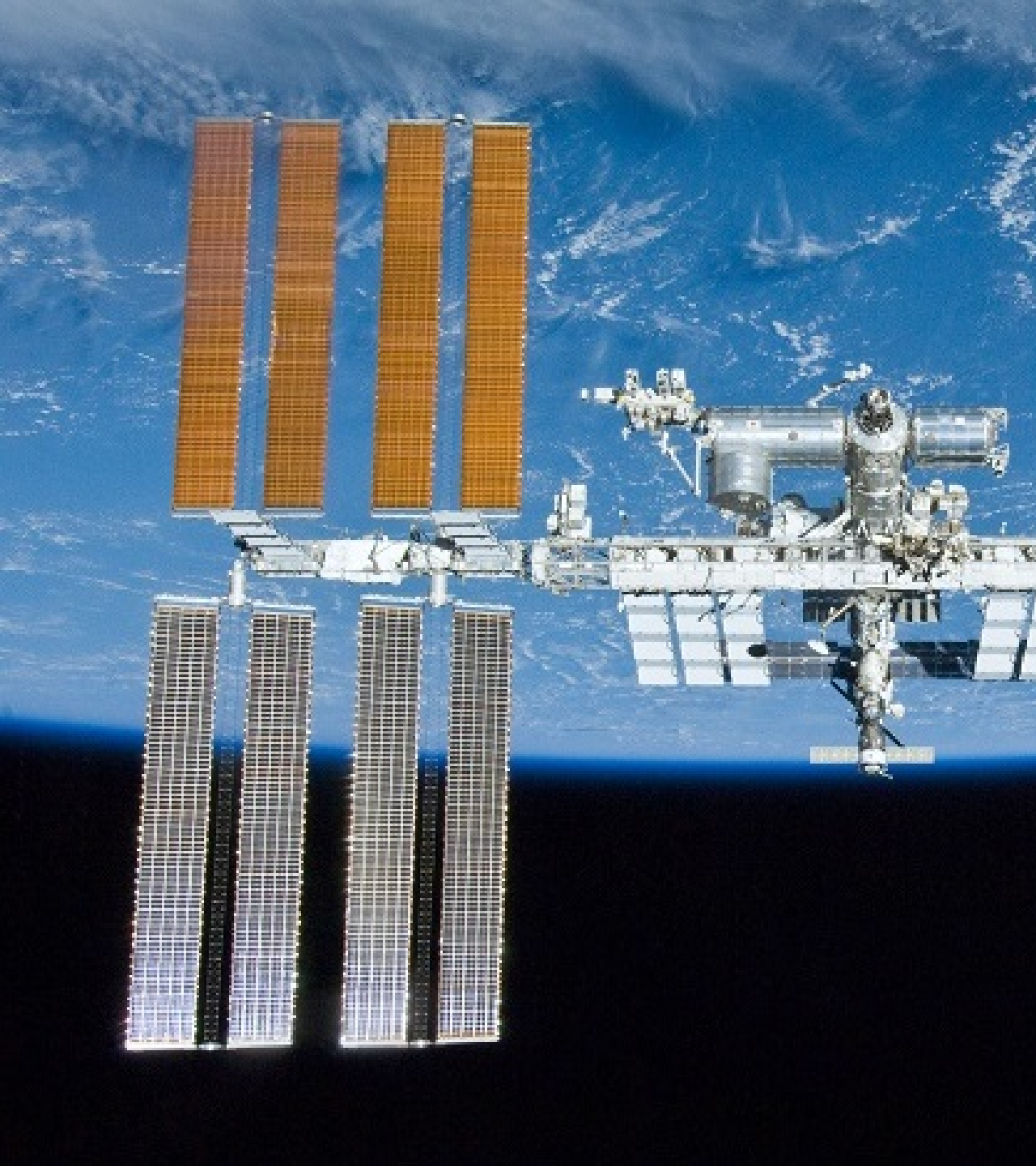
具体的には、訓練の従事割合がほぼ100%となり、国内外含め他の宇宙飛行士と同じ計画で訓練することも多く、海外で訓練を行うこともあり、所属元と掛け持ちで業務をこなすということは難しいと判断した。次回の募集に向けて検討は継続する。

(4) 選考過程の透明性

選抜プロセスについては、応募者等の個人情報等に十分に配慮しつつ、公開可能な部分は積極的に公開するなど、透明性の確保に努めたい。

(5) 落選者への対応

受験者に対する何らかのフィードバックを検討中である。

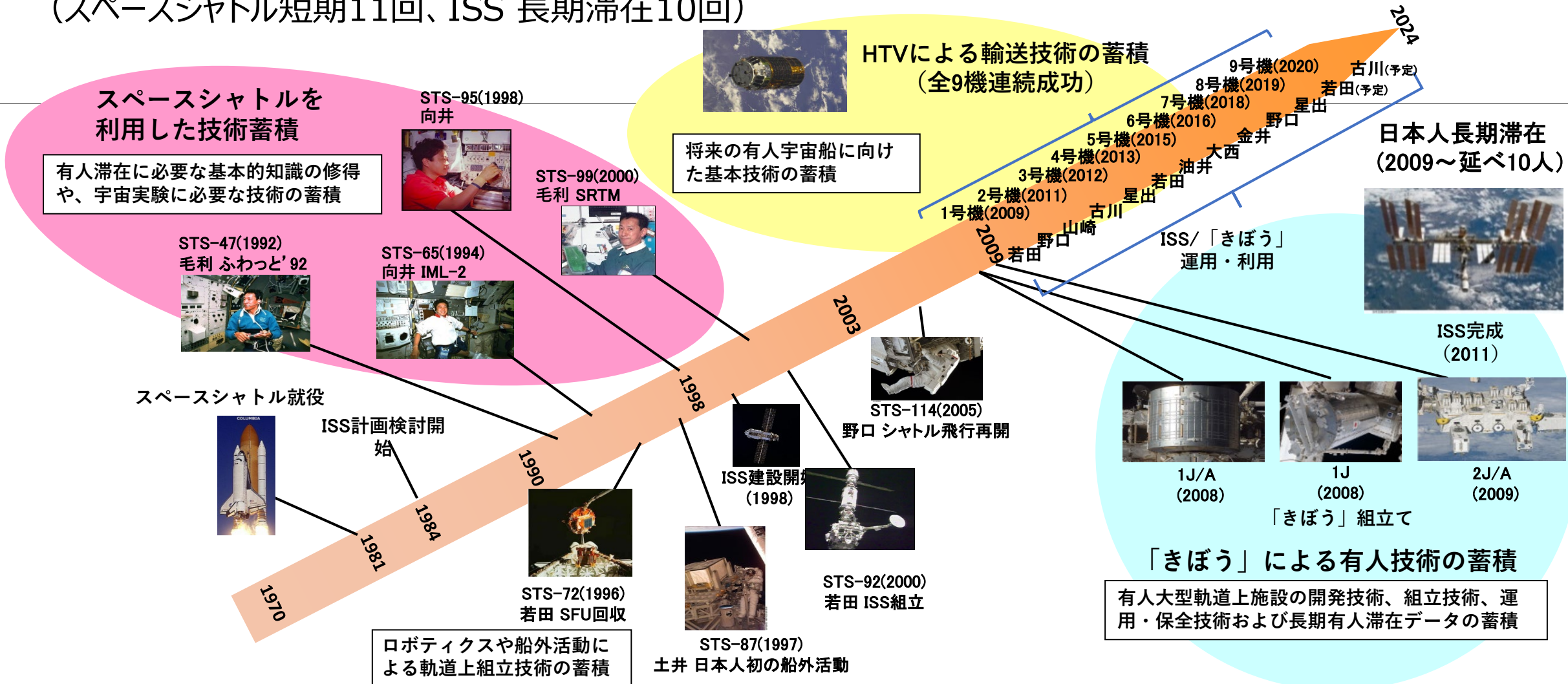


これまでの有人宇宙活動と 国際宇宙ステーション・ 日本実験棟「きぼう」 での活動

日本の有人宇宙活動（地球低軌道）の歩み

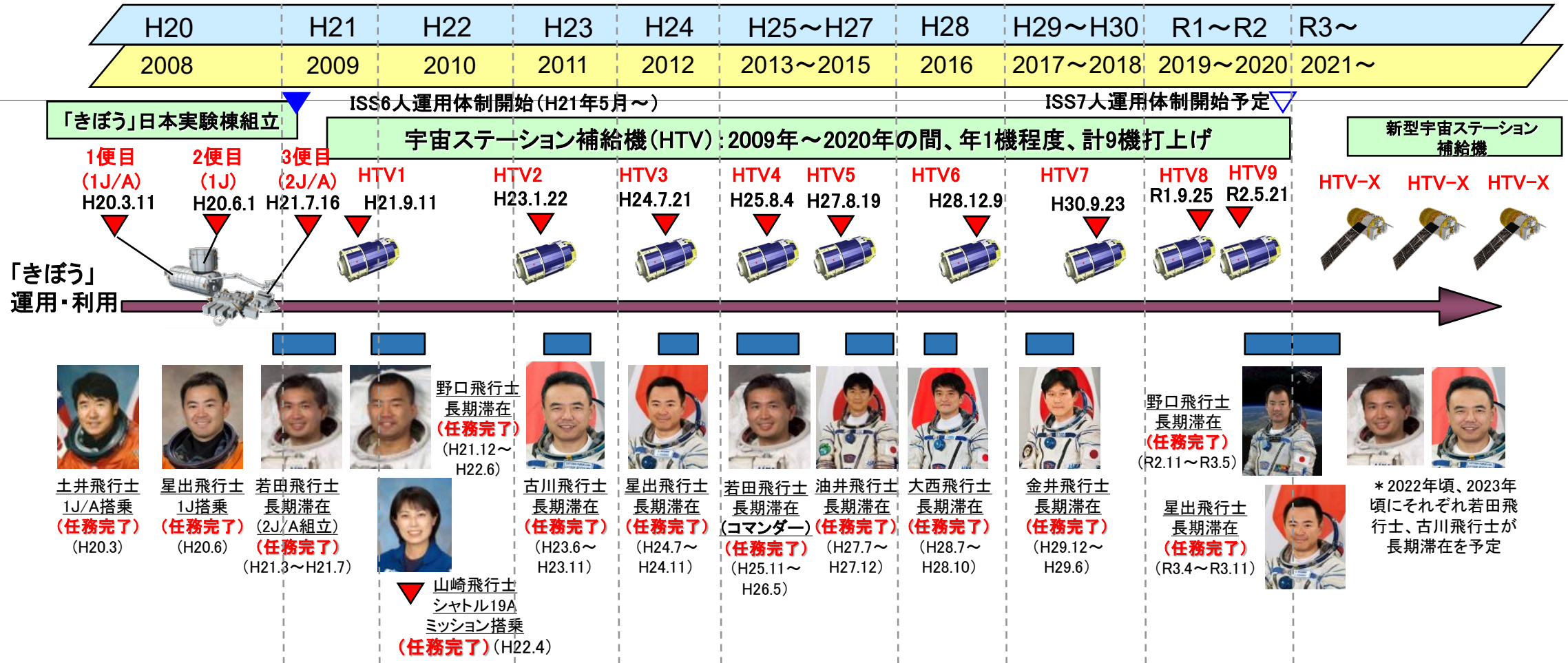
スペースシャトルによる宇宙環境利用、ISS・「きぼう」及び「こうのとり」の開発・運用、ISS・「きぼう」利用の実績を蓄積する中で、各フェーズの様々なミッションに日本人宇宙飛行士が搭乗。

(スペースシャトル短期11回、ISS 長期滞在10回)

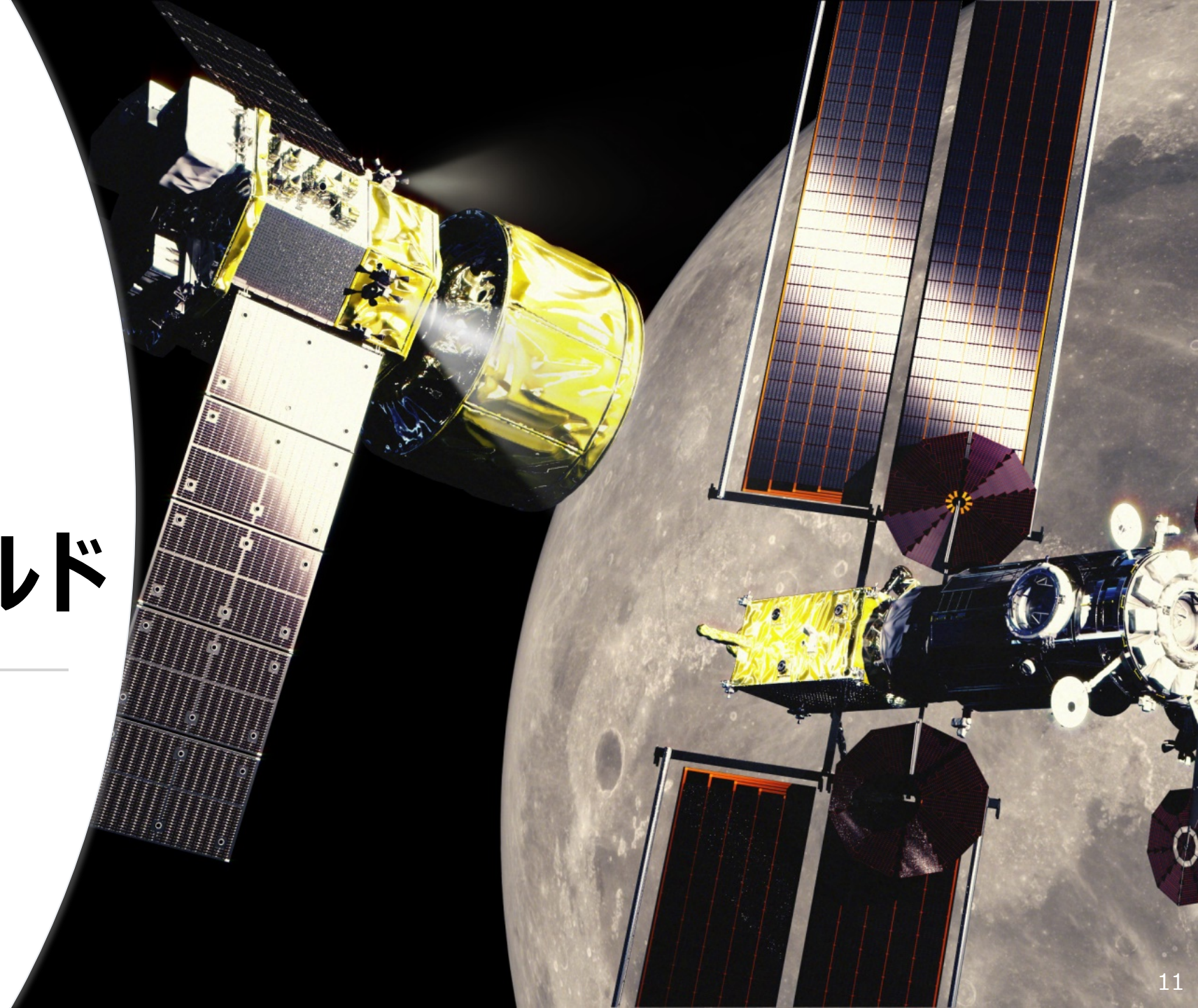


国際宇宙ステーション・日本実験棟「きぼう」での活動

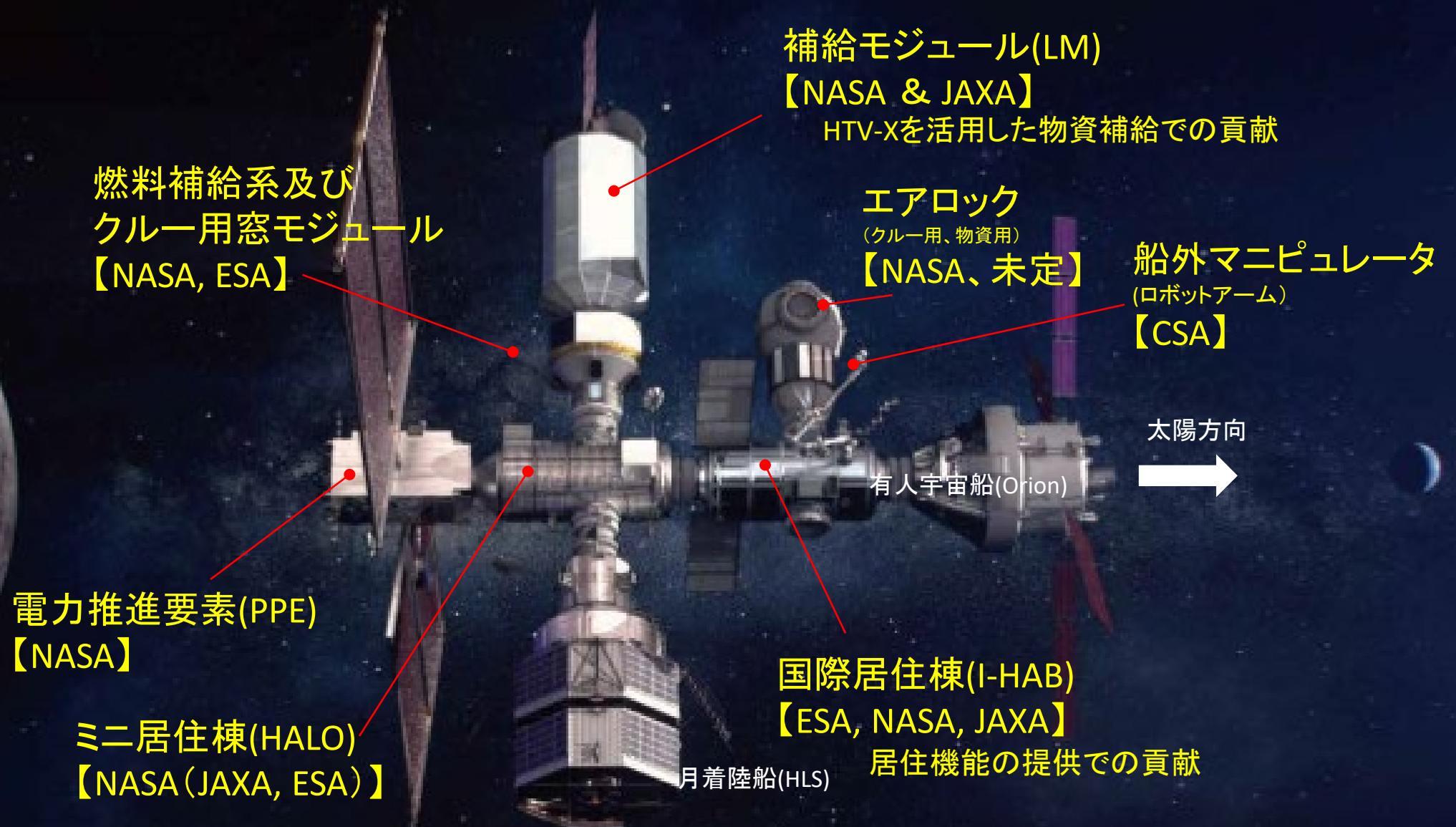
2名のISS船長輩出、米国・ロシアに次ぐ世界第3位の宇宙滞在実績



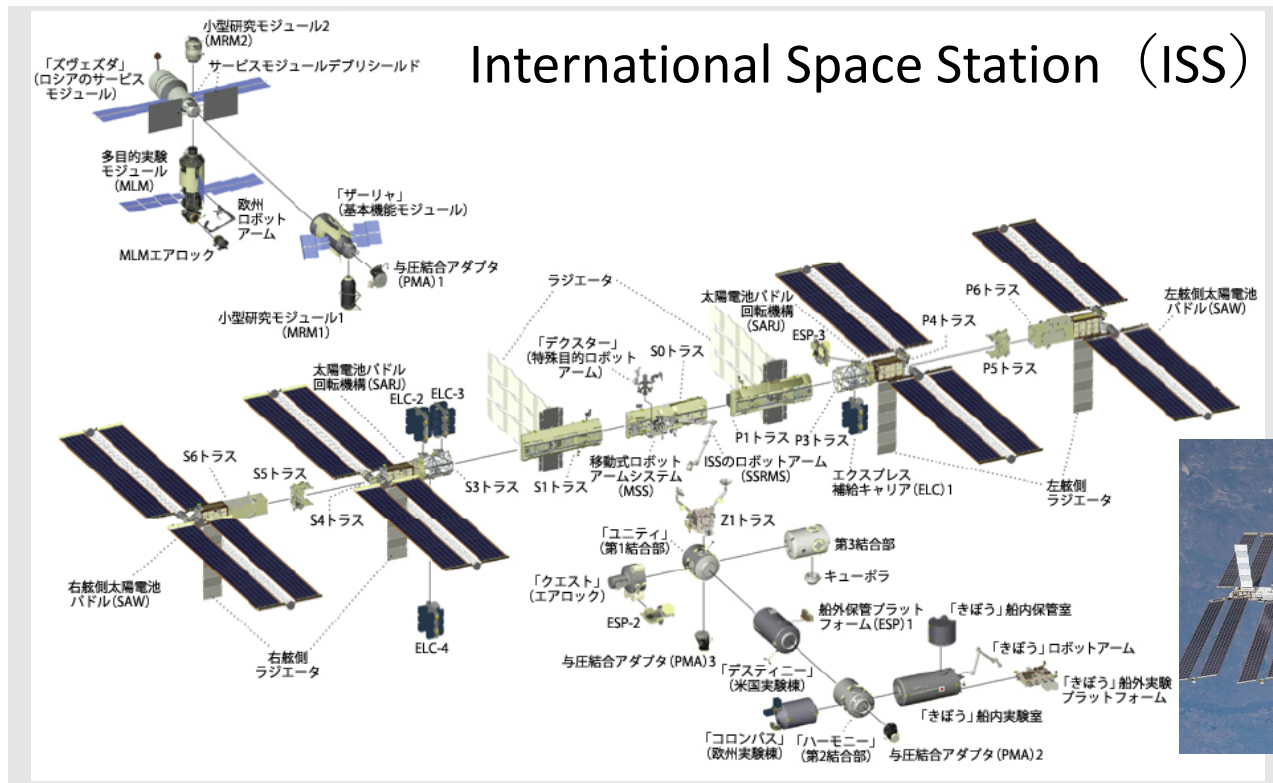
新たな 宇宙飛行士が 活躍するフィールド



新たな宇宙飛行士が活躍するフィールド ～月周回有人拠点（Gateway）～

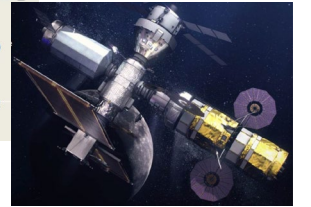
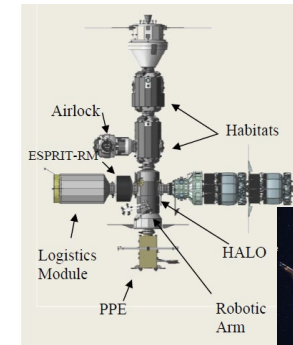


ISSとGatewayの比較 – 全体概要 –



International Space Station (ISS)

Gateway



©NASA

Gatewayは
ISSの1/6の大きさ

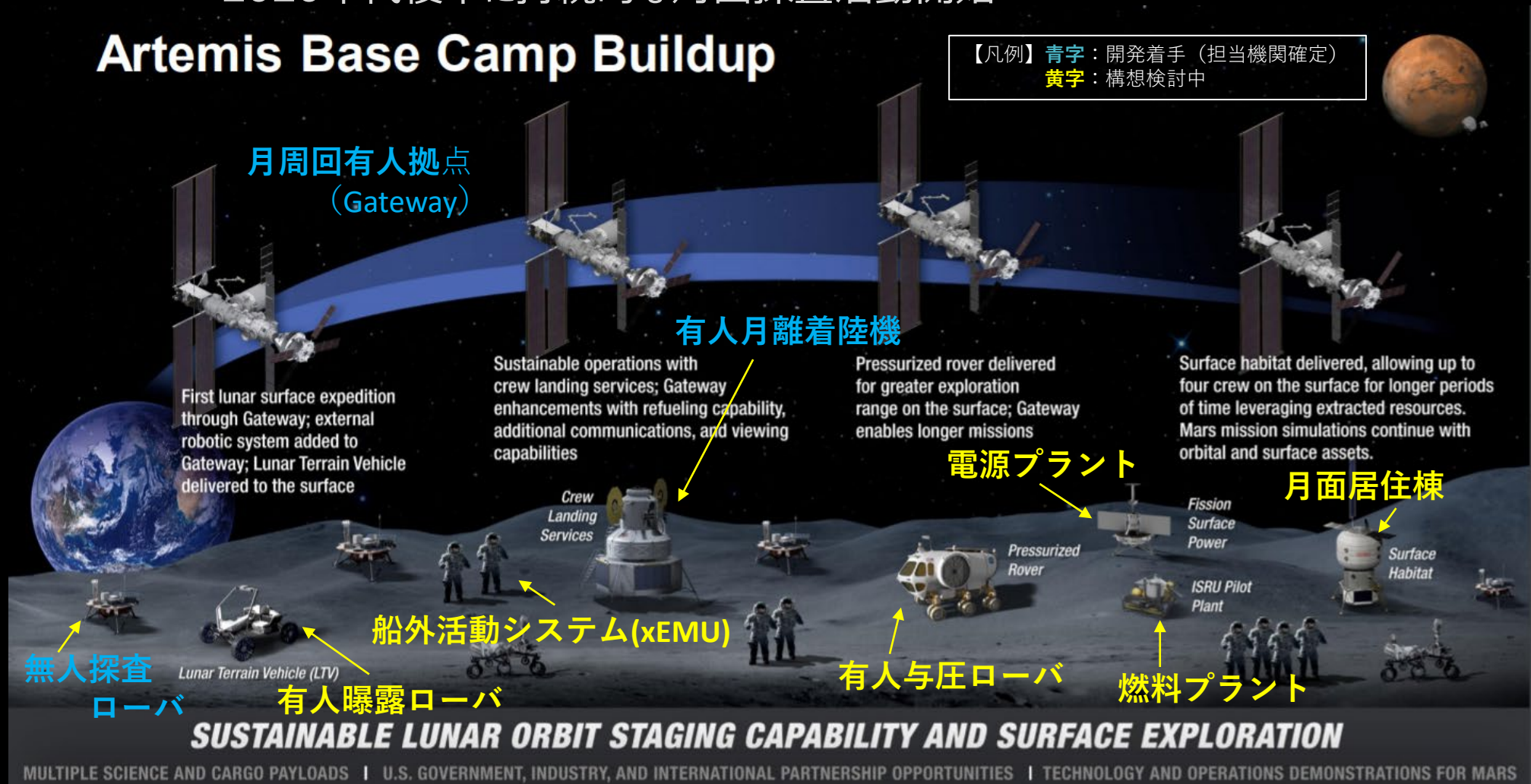


項目	ISS	Gateway
居住空間	9モジュール	2モジュール
補給フライト	8フライト程度／年	1フライト／年
飛行士滞在	6～7名×365日	2～4名×10～30日程度
利用実験操作	クルーによる操作を前提にできる	クルー不在中は遠隔操作が必要
利用クルータイム	3500時間／年(各極へ配分)	～90時間／年(～3時間程度/日)

新たな宇宙飛行士が活躍するフィールド（2020年代後半～）

初期は最小限の構成（開発要素の少ない機器を搭載し利用）
国際居住棟（I-HAB）建設後は、Gateway利用を本格化させ、
2020年代後半に持続的な月面探査活動開始へ

Artemis Base Camp Buildup



職務内容（訓練業務）

選抜された宇宙飛行士候補者は、採用された後に以下のような訓練業務を行う。訓練には、航空機操縦訓練、ジェット機による無重力体感訓練、サバイバル訓練等、身体的にも厳しい項目が含まれる。

- 宇宙飛行士候補者は、国内を中心に宇宙飛行士候補者訓練を受け、宇宙飛行士に必要な科学・技術の知識、ISS／「きぼう」システムの概要等を学ぶ。また、英語、ロシア語も習得する。
- 候補者訓練の修了後、これらの訓練結果の評価により、JAXA宇宙飛行士に認定される。
- その後、ISS計画に参加する日本、米国、ロシア、欧州及びカナダの宇宙機関にてISSの各システム及びその操作技術等を学ぶ。また、ISS搭乗が決定すれば、ミッション遂行に必要なISS操作手順、実験操作手順等の訓練及び有人輸送機（米国商業宇宙船など）の操作訓練等を行う。
- 米国が提案する国際宇宙探査（アルテミス計画）、有人輸送機（米国新型宇宙船）、ゲートウェイに関連した訓練を行う。

職務内容（搭乗業務）

選抜された宇宙飛行士候補者は、宇宙飛行士として認定され、かつ特定の搭乗業務に指名されれば以下のような業務を行う。宇宙船の搭乗をはじめ、宇宙での活動には、打上げ・飛行中・帰還時の事故、身体に対する様々な影響（微小重力や宇宙放射線等の影響）、スペースデブリ衝突などのリスクが伴う。

なお、宇宙飛行士候補者として選抜されても、訓練結果の評価やISSやアルテミス計画の変更等により、宇宙飛行できない場合がある。

- 米国商業宇宙船などへの搭乗
- ISSでの滞在（長期）
- ISS及び「きぼう」システムの操作・保全、実験・研究、船外活動

- 米国新型宇宙船への搭乗
- ゲートウェイでの滞在（短期）
- 操作・保全、実験・研究、船外活動

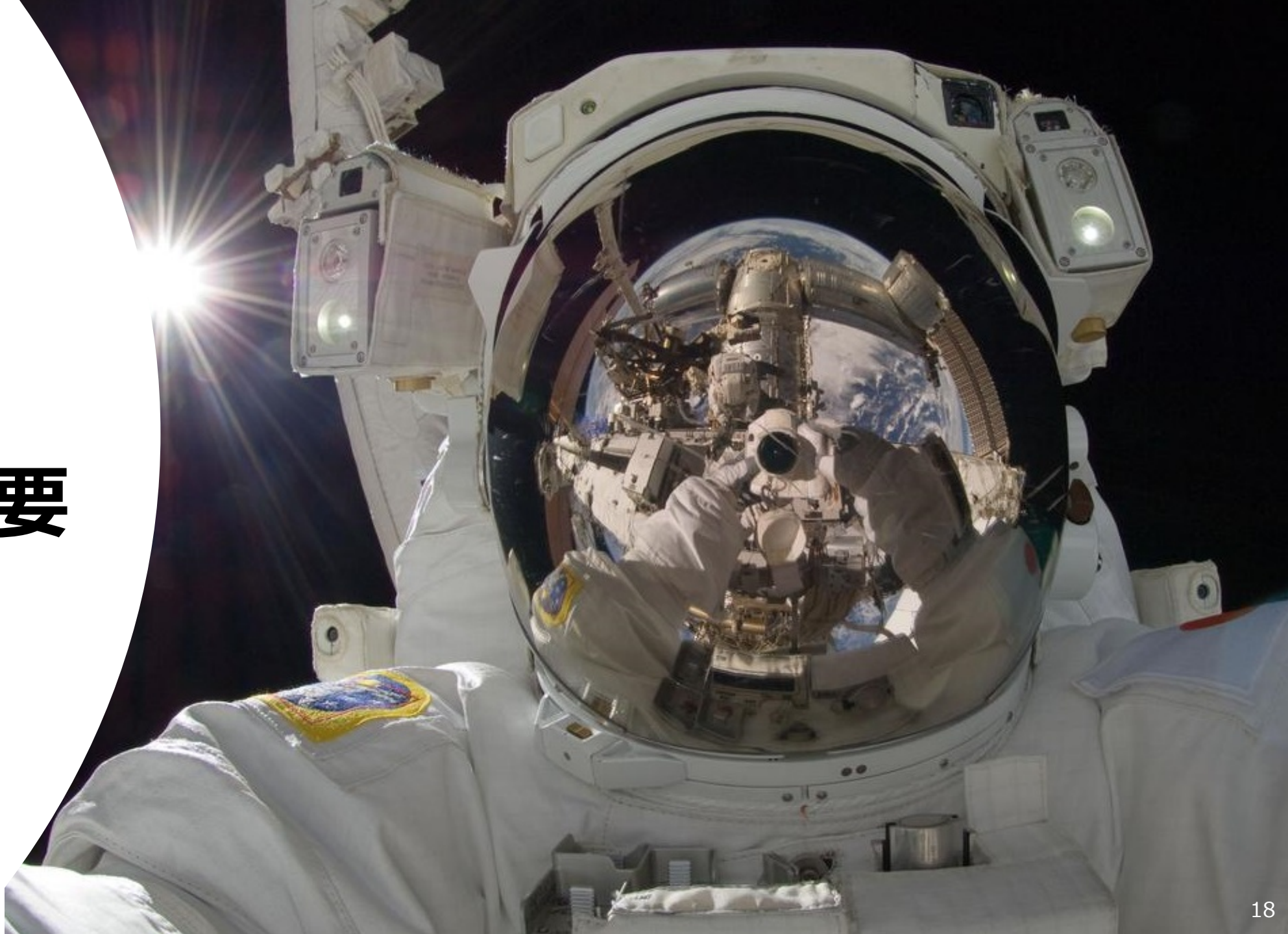
- 月面着陸船への搭乗
- 月面での滞在（短期）
- 月面での実験・研究、月面での船外活動

選抜された宇宙飛行士候補者は、前述の訓練及び搭乗業務の他に、以下のような技術業務を行う。

- 宇宙飛行及び訓練で積み重ねた経験を活かした、専門的な研究活動、システム・実験機器の開発、飛行士育成や訓練開発支援等
- 運用業務（宇宙飛行士との通信を行う交信担当、手順検証等）
- マネージメント業務（業務管理・方針決定等の調整、新人飛行士・候補者の育成、チーム行動能力の向上等）。

選抜された宇宙飛行士候補者は、ISS計画及び国際宇宙探査ミッション（ゲートウェイや月面での活動）をはじめ、宇宙開発に関わる普及啓発活動に従事し、積極的な参加が求められる。

募集の概要



募集の趣旨

- 国際宇宙探査時代においても、日本の有人宇宙技術が国際間で存在感を示していくためには、新たな日本人宇宙飛行士を育て、未来に継承していく必要がある。
- このため、日本人宇宙飛行士が国際宇宙ステーション（ISS）や日本実験棟「きぼう」をはじめ、月周回有人拠点「ゲートウェイ」や月面でも活躍することを想定し、新たな日本人宇宙飛行士の候補者を募集する。

採用人数：若干名

募集開始：2021年11月19日（金）

受付期間：2021年12月20日（月）から2022年3月4日（金）まで

選抜結果発表：2023年2月頃

（参考）選抜後の予定

JAXA入社、基礎訓練開始：2023年4月

JAXA宇宙飛行士の認定：2024年度末頃（2025年3月頃）

次のすべての条件を満たす者。

- (1) 2021年度末(2022年3月末)の時点で、3年以上の実務経験を有すること※1。

※1：修士号取得者は1年、博士号取得者は3年の実務経験とみなす。

- (2) 以下の医学的特性を有すること。

身長 149.5-190.5cm

視力 遠距離視力 両眼とも矯正視力1.0以上

色覚 正常（石原式による）

聴力 正常（背後2 mの距離で普通の会話可能）

応募資格の変更点

多様な方々に応募してもらうため、応募資格は緩和して審査で評価するという観点から、応募要件を策定。ポイントは以下の通り。

項目	前回（2008年）	今回	
		応募資格	選抜試験で評価
学歴	4 年制大学（自然科学系）卒業以上	—	選抜試験において一般教養試験（大学の教養課程相当）を実施
専門性 実務経験	<u>自然科学系（※1）分野における 3 年以上の実務経験（※2）</u> ※1 理学部、工学部、医学部、 歯学部、薬学部、農学部等 ※2 修士号取得者は1年、博士号取得者は3年の実務経験とみなす。	<u>3 年以上の実務経験（※2）</u> ※2 修士号取得者は1年、博士号取得者は3年の実務経験とみなす。	選抜試験においてSTEM分野（※3）の試験（国家公務員採用総合職試験（大卒程度試験）相当）を実施
医学的 要件	身長： <u>158cm以上～190cm以下</u> 体重：50kg～95kg	身長： <u>149.5cm以上～190.5 cm以下</u> 宇宙船の改良や新規開発により、宇宙船搭乗の身体的要件が緩和。	—

※3 STEMとは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering (工学)、Mathematics(数学)の略

選抜方法

下記の段階で選抜を行う。各段階では、試験・検査の結果等を総合的に評価する。

	実施内容	実施場所	実施時期
書類選抜	エントリーシート	N/A	
第0次選抜	英語試験 【以下は英語試験合格者のみ】 一般教養試験（大学の教養課程相当） STEM分野※の試験（国家公務員採用総合職試験（大卒程度試験）相当） 小論文 適性検査 エントリーシート（志望動機、自分の目指す宇宙飛行士像、業務経験等）による審査	国内にお住まいの方については、新型コロナウイルス感染症対策のため、各地域等での分散実施またはオンライン実施を検討中。 海外にお住まいの方については、JAXAの海外駐在員事務所での実施またはオンライン実施を検討中。	2022年5月7日(土)か、5月8日(日)のうち、JAXAが指定するいずれか1日（代替日程なし） 【以下は英語試験合格者のみ】 2022年5月28日（土）、5月29日（日）のうち、JAXAが指定するいずれか1日（代替日程はなし）
第一次選抜	一次医学検査、医学特性検査 プレゼンテーション試験、資質特性試験、運用技量試験	分散実施や、一部についてはオンライン実施を検討中。	2022年7月頃（2日間程度。ご希望に添う日程になるとは限らないことをあらかじめご了承ください）
第二次選抜	二次医学検査、医学特性検査 面接試験（英語、資質特性、プレゼンテーション）	JAXA筑波宇宙センター JAXA東京事務所、その他	2022年10月頃（約1週間）
第三次選抜	三次医学検査、医学特性検査、 資質特性検査、運用技量試験、 面接試験（総合、英語、プレゼンテーション）	JAXA筑波宇宙センター 海外（予定） JAXA東京事務所、その他	医学検査、医学特性検査、資質特性検査、運用技量試験： 2023年1月頃（約3週間） 面接試験：2023年2月頃（約2日）

※STEMとは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering (工学)、Mathematics(数学)の略

1. 国際共同事業、多国籍なメンバーシップのチームの中において、日本の代表として、多様性を尊重しつつ、ミッションを成功に導くための協調性と十分なリーダーシップを発揮できる。
2. 来たる国際宇宙探査ミッションを見据え、様々な環境に対しても適応能力があり、宇宙という極限環境での活動においても、柔軟な思考と着眼点を持ち、自らを律しつつ、適時的確な判断と行動ができる。
3. ミッション参加により得た経験・体験・成果を世界中の人々と共有する表現力・発信力があり、それらを活用し人類の持続的な発展や次世代のために貢献する。

選抜試験において、以下の特性を有することを評価する。また、これらに加え、宇宙飛行士の職務遂行に寄与する傑出した固有の特性を有する場合も評価する。

- ① 宇宙飛行士の職務に対して、明確な目的意識と達成意欲の強さ
- ② 宇宙飛行士に求められる任務・訓練に耐えうる健康状態
- ③ STEM分野の知識や論理的思考力、円滑な意思の疎通が図れる英語能力とともに、教育や実務経験等の中で取り組んできたことにおける専門性
- ④ ミッション遂行能力（自己管理、コミュニケーション、状況認識、リーダーシップ、問題解決、チームワーク、マルチタスク等）とともに、緊急事態にも迅速かつ的確に対処する能力。

- ⑤ 様々な業務環境及び技術や社会の急速な進歩・変化に適用するために、必要な身体能力及び精神心理的適応性・強靱性を有するとともに、未経験の知識や技量を速やかに習得する能力及び未経験の作業に対して自分の知識や技量を柔軟に活用して対応する能力
- ⑥ 日本人としての誇りを持ち、人文科学・社会科学分野を含む広範な素養・知識を有し、並びに自分と異なる文化・伝統・価値観等を有する者に敬意を払う国際的なチームの一員にふさわしい態度
- ⑦ 自らの体験や成果などを外部に伝える豊かな表現力と発信力
- ⑧ 国内・国際社会で求められる高いコンプライアンス意識。

(1) 選抜された宇宙飛行士候補者には、以下が要求される。

- 選抜後、基礎訓練時に必要な泳力（水着及び着衣で 75m : 25m x 3回、10分間立ち泳ぎ）の習得。
- 米国勤務当初に必要な国際免許の取得のため、日本の普通自動車免許の取得。
- 訓練業務及び搭乗業務のため、長期間にわたり海外及び宇宙での勤務。
- 宇宙医学実験・研究、ライフサイエンス研究等において、自分自身が被験者となる研究や手技を伴う動物を扱うミッションへの参加可否を、訓練業務と搭乗業務の計画に応じて確認。

- (2) 各種宇宙船や船外活動時に着用する宇宙服サイズの制約から、担当する宇宙飛行士には身体的特性の条件があり、候補者の身体的特性によってはミッションが制約される可能性がある（身体的特性の例：ソユーズ宇宙船の搭乗条件には、体重50-95kgの規定あり）。
- (3) 宇宙飛行士候補者として選抜された後、搭乗業務を行うまでの訓練業務が長くて7～10年間程度に及ぶことがある。また、訓練結果の評価やISSやアルテミス計画の変更等により、宇宙飛行できない場合がある。
- (4) 選抜は、公正な採用基準（応募者の基本的人権を尊重し、その能力と適性によって判断する）のもとで行われる。

等

募集選抜に関するスケジュール

募集要項 6.関連

募集要項公開時点での予定であり、第0次選抜以降の各選抜試験の実施時期・詳細は、一つ前の段階の選抜における合格者のみに通知予定。

	FY2021					FY2022												
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
マイルストーン	△ 募集 開始				△ 応募 状況 発表	△ 書類選抜 結果発表		△ 第0次 結果発表			△ 第一次 結果発表			△ 第二次 結果発表		△ 第三次 結果発表 (候補者発表)		
	問合せ 対応		エントリー シート受付期間			書類 選抜	0次		一次			二次			三次			

- 募集説明会：2021年12月1日（水）

募集要項に関する問合せや質問に回答をさせて頂く予定。

- 応募手続き

エントリーシートの入力と書類の提出方法は、ウェブページから提出

- ① エントリーシート（健康診断結果及び健康状況申告の入力を含む）を提出。
- ② エントリーシートに入力した健康診断結果の原本（健康診断書）は、後日提出（提出方法は後日ご案内）。

エントリーシートの提出に必要な経費（健康診断受診料等）は、応募者の負担となる。

また、第一次選抜までの受験及び検査のために必要な旅費（交通費、宿泊費等）も、応募者の負担となる。

広報・アウトリーチ活動について

民間企業等とも連携し、下記の広報・アウトリーチ活動を展開する

- 応募条件の緩和を踏まえ、「より多くの方が挑戦できる“職業”としての宇宙飛行士」をコミュニケーション上の軸として、各種広報施策を展開
- 特に、多様性（女性応募奨励等）の観点を考慮した企画や対象層へのアプローチを媒体社様等とも連携して積極的に実施していく。
- また、JAXAによる広報・アウトリーチ活動だけでなく、今回の募集機会を捉えて、企業・教育機関・自治体等による自主的な活動を促進する「応援キャンペーン」を展開し、日本中での話題喚起を図る。

⇒ 「HELLO ! EXPLORERS PROJECT (※)」に賛同する組織等を広く募集

⇒ 11/19より、特設サイトにて「応援サポーター」の受付開始

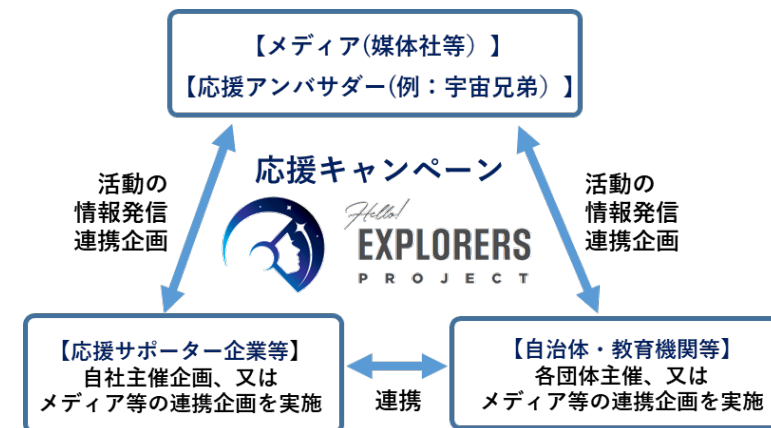
※「HELLO ! EXPLORERS PROJECT」について

月探査プログラム等に携わるアルテミス世代の宇宙飛行士を応援するプロジェクト。宇宙飛行士候補者募集も含めたこのプロジェクトには、「宇宙飛行士＝人類の未来を開拓する人々（Explorers）」という意味や「転職者＝人生を切り拓く人々（Explorers）」という意味を込めており、宇宙飛行士候補者募集に挑戦する全ての人たちを応援する取り組みです。

宇宙飛行士に、転職だ。



JAXA 宇宙飛行士候補者募集 2021年12月20日(月)～2022年3月4日(金)





JAXA宇宙飛行士

月探査時代に向け、来たれ！ 未来の宇宙飛行士

參考資料

前回の応募条件（2008年の実績）

応募総数：963名
最終選抜で3名を選出

- (1) 日本国籍を有すること。
- (2) 大学（自然科学系※）卒業以上であること。
（※）理学部、工学部、医学部、歯学部、薬学部、農学部等
- (3) 自然科学系分野における研究、設計、開発、製造、運用等に3年以上の実務経験を有すること。
（なお、修士号取得者は1年、博士号取得者は3年の実務経験とみなします。）
- (4) 宇宙飛行士としての訓練活動、幅広い分野の宇宙飛行活動等に円滑かつ柔軟に対応できる能力（科学知識、技術等）を有すること。
- (5) 訓練時に必要な泳力（水着及び着衣で75m：25mx3回を泳げること。また、10分間立ち泳ぎが可能であること。）を有すること。
- (6) 国際的な宇宙飛行士チームの一員として訓練を行い、円滑な意思の疎通が図れる英語能力を有すること。
- (7) 宇宙飛行士としての訓練活動、長期宇宙滞在等に適応することのできる以下の項目を含む医学的、心理学的特性を有すること。
 - ①医学的特性
身長：158cm以上190cm以下（注：宇宙服を着用して船外活動を行うには、約165cm以上が必要です。）
体重：50kg～95kg
血圧：最高血圧140mmHg以下かつ最低血圧90mmHg以下
視力：両眼とも矯正視力1.0以上（注：裸眼視力の条件はありませんが屈折度等の基準があります。
屈折度：+5.50～-5.50ジオプトリ以内、乱視度数：3.00ジオプトリまで、
左右の屈折度の差：2.50ジオプトリまで。
また、平成20年6月20日時点で、PRK手術・LASIK手術の後、1年間以上を経過して恒久的な副作用がない
場合には医学基準を満足します。それぞれ医学検査時に評価します。）
色覚：正常
聴力：正常
 - ②心理学的特性
協調性、適応性、情緒安定性、意志力等国际的なチームの一員として長期間の宇宙飛行士業務に従事できる心理学特性を有すること。
- (8) 日本人の宇宙飛行士としてふさわしい教養等（美しい日本語、日本文化や国際社会・異文化等への造詣、自己の経験を生き活きと伝える豊かな表現力、人文科学分野の教養等）を有すること。
- (9) 10年以上宇宙航空研究開発機構に勤務が可能であり、かつ、長期間にわたり海外での勤務が可能であること。
- (10) 米国勤務当初に必要な国際免許の取得のため、日本の普通自動車免許を採用時まで取得可能なこと。
- (11) 所属機関（又は、それに代わる機関）の推薦が得られること。

海外宇宙機関の宇宙飛行士の人数等

項目	現状の飛行士数 (男女の人数) 【男女比%】	最近の募集実績 今後の募集計画	平均年齢 (2021年11月 時点)
NASA	44名 (男性28名、女性16名) 【64:36】	2020年3月 募集開始 2020年4月 選抜開始 2021年12月 選定予定	49歳
ESA	7名 (男性6名、女性1名) 【86:14】	2021年3-6月 募集開始 2021年6月 選抜開始 2022年10月 選定予定	46歳
CSA	4名 (男性3名、女性1名) 【75:25】	2016年 募集開始 2017年 2名選定	42歳
ロシア	29名 (男性28、女性1名) 【97:3】	2019年 募集開始 2021年1月 4名選定	43歳
日本	7名 (男性7、女性0) 【100:0】	2021年11月 募集開始 2023年2月頃 選定予定	52歳

これまでのJAXA宇宙飛行士候補者の採用履歴

- 過去5回にわたり宇宙飛行士候補者採用を実施。
- 宇宙飛行士候補者採用にかかる知見やノウハウを蓄積。

	募集期間	応募者	結果発表	結果
第1回	1983年12月1日 ～1984年1月31日	533名	1985年8月7日	毛利衛 向井千秋 土井隆雄
第2回	1991年7月1日 ～8月31日	372名	1992年4月28日	若田光一
第3回	1995年9月1日 ～10月20日	572名	1996年5月29日	野口聡一
第4回	1998年2月9日 ～4月30日	864名	1999年2月10日	古川聡 星出彰彦 山崎直子
第5回	2008年4月1日 ～6月20日	963名	2009年2月25日 ※2009年9月8日	大西卓哉 油井亀美也 ※金井宣茂

ISS搭乗宇宙飛行士候補者の募集・選抜(2008年の実績)

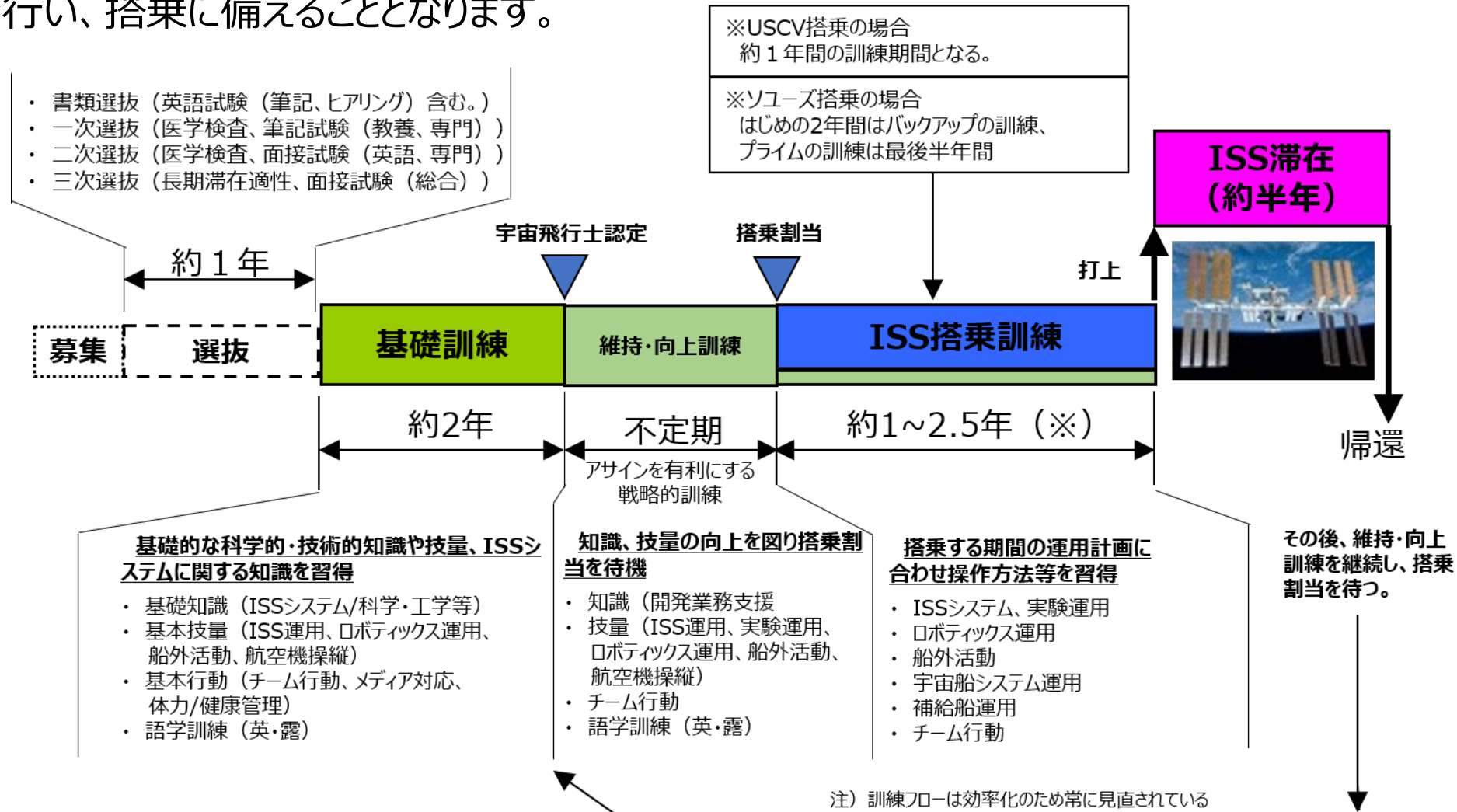
- 前回の募集・選抜の概要を以下に示します。書類選抜から始まり、医学検査、一般教養、専門試験、面接、宇宙飛行士としての適性試験などを踏まえて選抜されます。

	時期	場所	内容
募集 発表	2008年2月27日	東京	募集・選抜計画概要として、応募受付期間、応募条件・選抜方法等を発表
受付 期間	2008年4月1日 ～6月20日	—	応募書類 ① 宇宙飛行士候補者志願書、② 経歴書、③ 健康診断書 ④ 健康状況調査書、⑤ 大学卒業証明書 ⑥ 修士または博士の学位を証明する書類のいずれか一つ（学位証明書等） 〔修士または博士の学位を有する者のみ〕 ⑦ 英語能力証明書類（TOEFLスコアレポート、TOEICスコアレポート、実用英語技能検定合格証書、国際連合公用語英語検定合格証のいずれかのコピー 1 部）〔海外在住者のうち、当該書類を提出できる者のみ〕 ※第二次選抜合格者は、第三次選抜前までに推薦書を提出
書類 選抜	2008年7月22日	※全国 6ヶ所	宇宙飛行士募集要項に基づき提出された書類による医学審査及び資質審査（職歴や英語能力など） ※札幌、仙台、東京、大阪、広島、福岡にて英語試験を6月と7月に実施
第一次 選抜	2008年8月9日 ～8月10日	筑波	一次医学検査、一般教養試験（筆記）、基礎的専門試験（筆記）、心理適性検査（筆記）
第二次 選抜	2008年10月12日 ～11月1日	筑波	二次医学検査、面接試験（精神心理、英語、一般・専門）、作業検査
第三次 選抜	2009年1月11日 ～2月4日	筑波	三次医学検査、長期滞在適性検査、泳力試験、面接試験（JAXA飛行士、NASA飛行士、外部有識者、役員）

約1年間

これまでのISS搭乗宇宙飛行士の選抜・養成プロセス

- これまでのISS搭乗宇宙飛行士の選抜・養成プロセスは以下の通りです。募集開始から約1年間の選抜期間を経て、宇宙飛行士候補者を選定。その後約2年間の基礎訓練を受け、正式に宇宙飛行士として認定されます。認定後は搭乗機会が与えられるまでの間、維持・向上訓練を積みます。搭乗機会アサイン後は固有ミッションの訓練を行い、搭乗に備えることとなります。



ISS搭乗宇宙飛行士候補者の基礎訓練（1999年-2000年の実績）

基礎訓練は、大別して以下の4つの分野で構成されます。

1. 宇宙飛行士として必要な工学や宇宙機の概要等に関する知識（イントロダクション）
2. 軌道上で実施する種々の宇宙実験に必要なサイエンス関連の知識
3. 軌道上で実際に操作を行うISS/きぼうのシステムの概要
4. 宇宙飛行士に必要なスキル（一般サバイバル技術、飛行機操縦、SCUBA、語学、体力等）の維持向上を目的とした基礎能力訓練

※ 1.～3.は講義を中心とし、一部に実習が含まれます。4.の基礎能力訓練は実習・実技訓練が中心です。

分 類	項 目
イントロダクション	オリエンテーション
	訓練計画概要
	宇宙活動の現状と枠組
	世界の宇宙開発
	日本の宇宙開発
	施設ツアー
基礎工学	航空宇宙工学概論
	電気・電子工学概論
	計算機概論
宇宙機システム・運用概要	スペースシャトル概要
	ロシア宇宙機概要
	アリアン概要
	H-II概要
ISS／きぼうのシステム	ISS運用
	ISSシステム
	きぼうのシステム・運用訓練

分 類	項 目
サイエンス	宇宙科学研究
	ライフサイエンス
	微小重力科学
	地球観測・宇宙観測
基礎能力訓練	一般サバイバル技術訓練
	水泳技術
	SCUBA
	心理支援プログラム
	健康管理
	体力訓練
	無重量体感訓練 （ジェット機によるパラボリックフライト）
	低圧環境適応訓練
	WETS-EVA訓練（水中での宇宙服着用船外活動訓練）
	飛行機操縦訓練
	写真技術
	語学訓練（英語、ロシア語）
	メディア対応訓練（日本語、英語）

Hello EXPLORERS PROJECTのロゴマーク



Hello! EXPLORERS PROJECTのロゴマークは、宇宙飛行士の募集であることが端的にわかるよう、宙を見上げる宇宙飛行士の横顔をモチーフに。

女性とも男性ともとれるジェンダーレスなシルエットで宇宙飛行士が特定の性別にとらわれない職業であることを表現。

三日月にも見えるシルエットと見つめる先に輝く星々に、月探査（アルテミス計画）や、人類の未来に還元できる多様なミッションの意味を込めています。